



# 「ペッテルとロッタのクリスマス」

ペッテルとロッタは、ことしのクリスマスイブは、きよねんよりも、もっとたのしかったとおもいました。だって、プレゼントをもらうばかりでなく、みんなにもあげることができたんですもの。

Elsa Beskow

## { 夢見る力が育つとき }

～エルサ・ベスコフの世界～

### エルサ・ベスコフ



1874年ストックホルム生まれ。小学校の絵画教師を務めた後、絵本や児童書の挿絵を描く。1952年、子どもの本に対するスウェーデンの最高賞、ニルス・ホルゲション賞を受賞。1958年には彼女の業績を讃え、スウェーデン図書館協会にてエルサ・ベスコフ賞が創立された。

「ペッテルとロッタのクリスマス」は、前号でご紹介した「3人のおばさんシリーズ」のうちの一冊で、3人のおばさんたちに引き取られたペッテルとロッタが、初めてのクリスマスを迎える場面から始まります。クリスマス用のクッキーを焼いたり、森へ出かけてモミの木を切り出したり…みなしごだったペッテルとロッタには何もかもが初めての体験でした。そしてクリスマスイブ当日、むらさきおばさんがピアノでクリスマスの歌を弾き、あおおじさんが聖書を読んでいる間、「こんなにきれいなものは見たことがない」とまばゆいばかりのクリスマスツリーに見とれます。ツリーを囲んでダンスをした後、食事が始まると、「やぎおじさん（19世紀のスウェーデン

におけるサンタクロースのような存在。プレゼントを渡してくれる）」が、背中に袋をしょって現れます。

スウェーデンの古典的なクリスマスの風景を忠実に描いたこの作品は、19世紀のスウェーデン文化に触れる意味でも、非常に有意義なものとなっています。ドレスや家具、建築…ベスコフの挿絵は、歴史的にも正しく描かれており、その様式や題材には、スウェーデンの国民的画家である、カール・ラーションの影響も認められます。

生まれて初めての幸福なクリスマスを過ごしたペッテルとロッタは、「来年はおばさんたちにもプレゼントが届くといいのに」と願い、やぎおじさんへのことを頼む手段を考えます。そして迎えた翌年のクリスマスは…。家族を大切にし、熱心に子育てと向き合ってきたベスコフの作品らしく、この作品も、他者に対する思いやりの大切さ、願いを行動に移す尊厳、愛ある行動がもたらす、より大きな幸福など、たくさんの教訓に満ちています。決して派手ではないけれど、

穏やかに心に残る、美しいクリスマスのお出来事——スウェーデンの子ども達だけでなく、世界中の子どもたちの心の中に、読み返すごとに深く刻み込まれる物語です。

※エルサ・ベスコフ作・絵 菱木寛子訳  
「ペッテルとロッタのクリスマス」(福音館書店刊)

監修: 齋藤惇夫

作家・児童文学者。福音館書店の専務取締役(編集責任者)として子どもの本の編集に携わり、2000年に退社、創作活動に専念。著書に『グリックの冒険』(岩波書店・日本児童文学者協会新人賞受賞)、『冒険者たち』(岩波書店・国際アンデルセン賞優良作品賞受賞)、『ガンバとカワウソの冒険』(岩波書店・野間児童文芸賞、国際アンデルセン賞優良作品賞受賞)、『哲夫の春休み』(岩波書店)などがある。

### PRESENT

今回ご紹介したベスコフの絵本を3名様にプレゼントいたします。ご希望の方は、同封のコミュニケーションカードまたは郵便はがきに、賞品名・住所・氏名・年齢・電話番号・メールアドレスを明記の上、ご応募ください(12月15日消印有効)。郵便はがきでご応募の場合はP.26の「お便り募集」の宛先までお願いいたします。なお、当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

